

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓である「自主自律」「和親協力」を背景に、変化の激しい時代に対応できる人を育て、生徒・教員がともにチャレンジする学校をめざす。

- 1、基礎学力の定着を背景に広い教養を身につけ、健全な議論や思考等ができる基礎的・汎用的能力の育成をめざす。
- 2、急速に進むグローバル化に対応する英語教育を根幹とし、時代に沿った国際教育を研究・開発・展開する。
- 3、自由な校風と校訓「自主自律」「和親協力」を背景に、学習と部活・行事の両立をはかる。

2 中期的目標

1、学力の向上

(1) 学習習慣の定着を図る。

- ア 学校での学びと家庭学習を効果的に結びつけ、高校生として必要な基礎学力の定着をはかる。
イ 総合的な探究の時間を中心として学習活動全般で、社会人として通用する基礎的・汎用的能力の土台作りを行う。

※効果検証 学力生活実態調査の結果：【実績】 **高一 1学期** A3以上 297名 (R1)、294名(H30)、294名(H29)

高三 1学期 A3以上 54名 (R1) 63名 (H30) 65名 (H29)

【目標】R4年度まで…入学時A3以上が300名以上→高3のスタート段階が80名以上、これらを継続する。

(2) 教員育成のための研修・勉強会を実施し、統計資料を担保とした効果検証とフィードバックを行い、次年度へつなげていく。

- ア 上記(1)を実現するために、検討された内容を教科横断的な研修・勉強会を通じて、検討・定着を進める。
イ 検討された上記(1)について生徒アンケートや模擬試験などの結果から効果検証とフィードバックを行い、授業実践に活かす。

※効果検証 授業満足度(3項目平均)について、保護者アンケートにおける肯定的評価を令和元年度71.9%→令和4年度80%以上。

(3) 上記を実現するために必要な学校組織の業務運営の整備を進める。

- ア 上記(1)(2)を達成するために、スクラップアンドビルドを認識し、必要な業務内容を精選する。
イ 新グローバル科移行に伴い、新カリキュラムへの移行を前倒し実施するとともに、教員が生徒と関わる時間を確保し教育効果を高める。

2、グローバル時代に対応する教育実践の導入と展開

(1) 4技能を英語授業に毎時間組み込んだ授業展開とさらなる英語教育の充実をはかる。

- ア 「骨太の英語力養成事業」の成果を踏まえ、4技能、特にoutput重視の英語教育を深化させる。
イ CEFRを外部評価基準とし、英語学力調査をグローバル科及び普通科全体で継続し学力を伸長させる。(以下の効果検証指標を用いる)

4技能(listening、writing、reading、speaking)統合データ (H29以前は国際科のみ受験、H30より全員受験)

| | H30 | | | | H31 (R1) | | | | R2 | | | | R3 | | | | R4 | | | |
|------|-----|-----|-----|-----|----------|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|--|--|--|
| | 1年 | 2年 | 1年 | 2年 | 1年 | 2年 | 1年 | 2年 | 1年 | 2年 | 1年 | 2年 | 1年 | 2年 | 1年 | 2年 | | | | |
| B1以上 | 6 | 19 | 10 | 42 | 40 | 50 | 45 | 55 | 50 | 60 | | | | | | | | | | |
| A2 | 239 | 255 | 310 | 271 | 270 | 275 | 275 | 280 | 280 | 285 | | | | | | | | | | |

speaking データ

| | H30 | | | | H31 (R1) | | | | R2 | | | | R3 | | | | R4 | | | |
|------|-----|-----|-----|-----|----------|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|--|--|--|
| | 1年 | 2年 | 1年 | 2年 | 1年 | 2年 | 1年 | 2年 | 1年 | 2年 | 1年 | 2年 | 1年 | 2年 | 1年 | 2年 | | | | |
| B1以上 | 8 | 8 | 11 | 39 | 20 | 50 | 25 | 60 | 25 | 60 | | | | | | | | | | |
| A2 | 225 | 261 | 284 | 260 | 280 | 270 | 285 | 275 | 290 | 280 | | | | | | | | | | |

ウ 海外留学生の受け入れ態勢を準備・計画し、海外研修、海外大学説明会などで英語教育や国際化教育の機会を充実させる。

エ 外部との連携を図り、生徒とともに教職員も学び続ける。

(2) ロジカル・クリティカルシンキング思考を学び、そのスキルを習得できるよう「総合的な探究の時間」を中心に実践を広げる。

- ア 日本語のディベートやプレゼンテーションなどをとり入れ、ロジカル・クリティカルシンキングを深めさせ、通常授業へ順次導入していく。
イ 海外研修や修学旅行についても、事前事後学習も含む全過程を通じてロジカル・クリティカルシンキングを使いながら成果発表へとつなげる。

3、安全・安心な学びの場の中で、学習・行事・部活動の一層の活性化をはかる

(1) 教育相談、保健教育、人権教育の機能を一層促進し、安全で安心な学びの場を形成する。

- ア 教員とSCの協力のもと、全教職員で教育相談を充実させ、生徒が相談しやすい環境づくりを促進する。
イ いじめを根絶すべき重要課題を認識し、未然防止、早期発見、組織的対応に取り組む。
ウ 災害や事故に備えてマニュアル整備や情報提供システムを整備し、実行性のある危機管理体制を確立する。

※効果検証 ア自己診断「教育相談」(生徒)の肯定率R1:64.5%→R4:72%以上 (H29:57.7% H30:58.1% R1:64.5%)

イ自己診断「いじめ対応」(生徒)の肯定率R1:82.6%→R4:90%以上。(H29:75.1% H30:77.0% R1:82.6%)

ウ自己診断「災害時の情報提供」(生徒)の肯定率R1:57.4%→R4:65%以上 (H29:51.1% H30:50.4% R1:57.4%)

(2) 生徒の進路実現のために保護者・教員が一体となった支援体制を確立する。

- ア 国公立大学への進学実績を伸ばす。
イ 海外大学進学説明会をより充実させ、国内外の関係機関との連携を深めて海外大学への進学をめざすシステムを確立する。

※効果検証 ア:令和元年度58名を令和4年度80名以上。

イ:他校と合同の海外大学説明会の実施及び海外大学進学希望者に対する合格者の合格率R1 50%→R4 70%以上。(H29 50% H30 63% R1 50%)

(3) 生徒主体の部活動・行事の運営と学習との両立を進める。

- ア 基礎的な生活習慣の定着を進める。
イ 生徒会を中心とした、自主的な活動を推進する。
ウ 「大阪府部活動の在り方に関する方針」に沿い、生徒の自主活動や部活動と教職員の働き方とのより良いバランスを実現する。

※効果検証 ア:年間遅刻者数を令和元年度延べ5374名を令和4年度には延べ3300名まで減らす。

イ:自己診断「生徒会を中心とした自主的な活動が活発である」(生徒)肯定的回答R1:80.6%→R4:88%以上 (H29:72.2% H30:79.2% R1:80.6%)

(4) 地域との連携を意識し様々な機会を通じて情報発信と協働を行う。

- ア 生徒会や部活動を中心に地域のイベント、清掃活動、ボランティア活動等に参加し、地域への協力を進める。
イ HP等の電子媒体、リーフレット等の紙媒体及び学校説明会等広報活動で情報発信についてさらなる充実に努め、本校への理解の向上をはかる。

※効果検証 イ:HP更新回数の令和2年以後は100回以上の継続及び自己診断「教育情報の提供」(保護者)肯定率R1:83.1%→R4:90%以上 (H29:85.4% H30:70.3%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分] | 学校運営協議会からの意見 |
|--|--|
| <p>(全体としてのまとめ)</p> <p>昨年同様、生徒・保護者・教職員すべてのアンケート項目30項目とし、回答しやすいようにしている。すべての項目(90)中、昨年度と比較して、生徒・保護者・教職員の肯定的評価がupした項目数とdownした項目数は次のとおりである。生徒1年生 up28/down2、生徒2年生 up29/down1、生徒3年生 up21/down9、保護者1年生 up18/down12、保護者2年生 up29/down1、保護者3年生 up14/down16、教職員 up18/down12 となり、今年度の自己診断において、学校に対する「評価は概して昨年より向上している」と考えたい。</p> <p>(生徒による評価)</p> <p>1年生における学習指導に関しては、「授業はわかりやすく楽しい」(52.4%→80.1%) upしたとはいえ、「箕面高校へ行くのが楽しい」(88.6%→61.4%)と評価が低い。コロナ禍、学校休業・分散登校という不安のなかでスタートした学年なので、教育相談・支援体制をより充実させていく。</p> <p>2年生では、「授業はわかりやすく楽しい」(52.4%→65.3%)とupしたが、「英語教育が充実している」(82.6%→71.4%)にdownした。グローバル科、普通科にかかわらず、英語教育のさらなる充実と見直し、授業の改善を働きかけていきたい。</p> <p>3年生においても、「授業はわかりやすく楽しい」(49.2%→78.2%)とupしたが、「箕面高校を信頼している」(62.3%→47.1%)とdownした。コロナ禍、十分な進路情報の提供や生徒の抱える受験への不安を払拭することに課題があったためと思われる。</p> <p>(保護者による評価)</p> <p>1年生保護者において、「先生方は生徒を理解している」78.2%→89.2%、「子どもは授業が楽しくわかりやすいと言っている」(58.1%→69.3%)と10%以上upしたが、「箕面高校の学校行事に参加したことがある」(83.2%→30.3%)とdownした。今般の状況を受け、致し方ない面もあるが、学校情報の提供方法は検討の余地がある。</p> <p>2年生保護者では、「進路指導面で、学校は家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」(78.2%→85.7%)20%以上upした。「箕面高校の学校行事に参加したことがある」(87.3%→80.5%)を除き、全ての項目で、肯定値が上昇した。</p> <p>3年生では、「箕面高校のホームページを見ている」(42.6%→54.8%)とupしたが、「英語教育が充実している」(81.4%→74.6%)はdownした。</p> <p>(教職員による評価)</p> <p>肯定値は18と一般的に良い結果であり、「各学年や各分掌の連携」(61.3%→79.4%)肯定的評価が18%以上upした。加えて「校内研修の充実」(77.4%→91.2%)も13%以上upした。高大連携をはかりながら、充実した研修を継続したい。</p> <p>その一方で、「経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制」(71.9%→47.1%)と24.8%downした。より一層の教員力向上に努めてまいりたい。</p> | <p>【令和2年度 第1回学校運営協議会 令和2年7月3日(金)実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度学校経営計画における「めざす学校像」・「中期的目標」に関して満場一致で承認された。 外部検定テストではどの程度を目標としているのか? CEFRでB2、B1を取らせたい。今まではコンテンツを重視していたが、これからは3つの力(「異なる文化・価値観への共感力」、「知識・技能の活用力」)「自ら考え判断し行動する力」を付けることが必要である。何が正解かわからない社会の中で、最適解を見つけ出す力が必要で、そのためにクリエイティブな環境、探究的な学びでデザイン思考できる生徒を育てたい。 グローバル科というと文系とってしまうか? グローバル科には理系もあることが国際文化科と違うところ。英語で論文が書けるようにしたい。大阪大学外国語学部が船場に来るので、生徒にはぜひ行ってほしいと思っている。 夢が持てる。枠をはめず、好きに羽ばかせてあげたい。 中学校にはダンス同好会があり、今年からクラブに昇格した。生徒たちは箕面高校に行きたがっている。今後タイアップできると思う。 令和3年度使用教科用図書については、本来ここで示して意見をいただくところだが、現在、選定委員会で検討中であるので、決定後に会長に見ていただくということでよいか。第2回の協議会でお示しする。(異議なし) <p>【令和2年度 第2回学校運営協議会 令和2年11月20日(金)実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度使用教科用図書の報告に関して満場一致で承認された。 学校運営協議会の運営に関する要綱の改正及び実施要項の改正について。コロナの影響から協議会もズーム等のオンライン会議が可能となった。そのための実施要項の改正である。(異議なし) 本計画の数値指標は現在経過中なので、第3回の協議会で達成状況の自己評価をお示しする。グローバル科の英語4技能を測定するため、昨年度はGTEC、今年は英検を全員受験した。CBTでは、英検2級が取れなかったとしてもCSEスコアは取れる。教職員の勉強会は当初予定通り実施しているが、夏期海外研修はコロナで中止となり達成できない。国内での代替プログラムを実施する予定。 コロナ禍のなか、ここまでやっておられるのかと感心した。生徒会など生徒が主体的にやれていることがうれしい。大学に行ったときの力になる。 授業アンケートについて、昨年度の課題であった「家庭学習時間が少ない」という項目はわずかに改善された。生徒の授業評価もすべての項目で3点台となり良好と考える。 何か具体的な取組みを行ったのか。 教員個々に校長・教頭とともに評価票を作成してフィードバックを行っている。先生方の授業見学を実施し評価を行った。評価内容、気づいたことは先生方に返し、一緒に授業づくりを改善していこうと提案させてもらった。 若い先生が増えたが、自分からは他の先生に訊かない。授業におけるファシリテーションは、先生方で差異が生じている。点数化して示すのは良いことだと思う。 良い話が聞けてありがたい。 ベテラン教員は自分の型のようなものを持っている。 そういった意味では、今回のオンライン授業は良い経験になった。生徒には学ぶことが面白いということを気付かせることが大事。 <p>【令和2年度 第3回学校運営協議会 令和3年3月2日(火)実施】</p> <p>令和2年度 学校経営計画・評価(案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全会一致で承認された。 ○ 意見等 <ul style="list-style-type: none"> 自己診断の結果は今年の状況から例年と同列には論じられないと思います。数値がダウンしたからよくないのではなく、いまの環境がいつまで続くのか分からない中、どんな取り組みができるのか、これまでの授業の殻を破った新しい取り組みは何か?といった検討が必要だと思います。特に英語はインターネットを活用して学校の枠を越えた授業ができると思います。 コロナ感染対策を行いながらの教育活動において、工夫を凝らしすべての行事を中止することなく実施できたことは、子どもたちにとっても学校生活の活力になっているはず。引き続き、工夫をされながらの教育活動の遂行を期待致します。教育相談機会や海外研修など、コロナの影響があった活動は、次年度のさらなる対策・工夫を期待します。 <p>令和3年度 学校経営計画(案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全会一致で承認された。 ○ 提案・意見等 <ol style="list-style-type: none"> 「高い志で自らの力を切り拓く力」に関して、国公立大学・関東圏の大学・海外大学等、生徒たちが高い志を持って自己実現・進路実現できる選択肢を増やすよう引き続き努力をしてほしいと思います。例えば、理科系学部で研究室の学生数が少なく研究環境の整っている地方国公立大学、特色のある学部・学科をもっている九州大学や東北大学、国際関係機関への就職の多い上智大学等にも選択肢を拡げられるのではないのでしょうか。Job型の企業が増えていくなか、学生時代に今でしかできない逞しさが求められています。 箕面高校の「海外大学に一番近い府立高校」としての先進的な取組みは大いに評価できます。広い視野で自分たちの未来を考える機会が、進路の選択肢にあることは箕面高校の強みです。箕面高校から多くの卒業生が海外大学に進学し、就職期を迎えている学生もいると思いますので、彼ら彼女らの就職の動向を把握し、広く紹介してほしいと思います。生徒・保護者は、そこがどうなるのか心配しているはず。3. 箕面高校のよさを伸ばし、そこに新たな取り組みを加えていこうとする意欲が感じられます。共通テストの英語が話題になっていますが、箕面高校の生徒にはそれに留まらずもっとアカデミックな議論もできる力が求められると思います。それには日本語での読解力と思考力・判断力・ |

府立箕面高等学校

| | |
|--|--|
| | <p>表現力が基盤となります。それらの獲得には、チームワークのあるカリキュラム・マネジメントが求められます。新たに設置される「学習指導室」がその推進力になると期待します。</p> <p>4. 1人1台端末の導入と家庭学習に関して、反転学習に類する形で、オンライン学習を活用して、家庭での時間を有効に使う取組みが進むことを期待しています。</p> <p>5. 海外に目を向ければ向けるほど、生まれ育った文化による意識されない視点のバイアスを自覚しなければなりません。国際理解にあわせて自国の文化理解を求めるのは、本来はそのようなことのためです。決して自国の文化を他国に紹介するためだけではありません。日本列島に生まれ育った者には、他国の風が入って来にくいだけに特に自覚する必要があります。箕面高校には世界に視野を向けた教育を発展させる生徒の育みの視点も持つてほしいと思います。</p> <p>6. 「国立大学の進学実績を80名以上」に関して、そのためには「国立大学の志望者を1名(3倍)にすること」がひとつの目安となると考えます。志望校合格のためには、「学力伸長」に加えて、「志望醸成」も重要なポイントとなります。海外大学進学への進学指導を含め、これまでも「志望醸成」の取組みを実践されてきたと思いますので、引き続き、これまでの取組みを進化させる形で、新たな取組みにも挑戦してほしいと思います。</p> |
|--|--|

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|--|---|--|--|----|-----|----|-----|----|----|------|----|------|----|----|-----|----|-----|----------|----|-----|----|-----|----------|----|------|----|------|---|------|----|----|----|-----|----|----|------|----|------|----|----|-----|----|----|----------|----|----|----|-----|----------|----|------|----|------|
| 1 学力の向上 | <p>(1) 学習習慣の定着</p> <p>(2) 教員研修・勉強会による教育力の向上</p> <p>(3) 学校組織の整備</p> | <p>(1) 授業と自学・自習をバランス良く実施し、基礎学力の定着をはかる。</p> <p>(2) 上記(1)を遂行するために、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新採者育成を含めた若手教員中心の勉強会を首席が中心となり年5回以上実施する。 ・授業アンケート(7、12月)の課題把握と成果検証と教職員へのフィードバックを実施し、授業改善に結びつける。 <p>(3) 新カリキュラムへの移行に伴い、学力がより一層向上するよう、学校組織における分掌・委員会の活性化をはかるとともに、中長期の視点に立った組織運営と人材配置を進める。</p> | <p>(1) 授業アンケートの「授業に対する生徒の取組み1」(必要な予習や復習) R1:2.8→3.0以上。また、授業アンケート8(授業への興味・関心を持つ)、9(知識・技能が身につく)平均で R1:3.0→3.1以上。</p> <p>(2) 以下の内容の完成と遂行をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラム及び授業プロセス等の課題を中心に勉強会を年5回以上実施。 ・自己診断「教員校内研修が役立つ」肯定感 R1:77.4→80%以上。 ・自己診断の学習指導の保護者アンケート(3項目平均)における「肯定感」 R1:71.9→75%以上。 ・12月の授業アンケート学校平均(生徒意識1・2) R1:3.0→3.1以上。 <p>(3) 本校の学校教育自己診断における全般に関する質問で肯定感 R1:87.4→90%以上。(生徒)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断「教職員の学校組織に関する項目」の肯定感 R1:81.3→84%以上。 | <p>(1) (必要な予習や復習) 2.9(△) 授業アンケート8、9で、3.2(◎)</p> <p>(2) ・経験年数が少ない教員中心の勉強会1回実施。(一) ※コロナ禍で時間的余裕が取れなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断「教員校内研修が役立つ」肯定感91%(◎) ・自己診断の学習指導の保護者アンケート(3項目平均)における「肯定感」74.5%で、僅かに届かなかったが、教科横断的な研修・勉強会のテーマであった学習評価の肯定感が90.9%だったので概ね達成。(○) ・12月の授業アンケート学校平均(生徒意識1・2) 3.2(○) <p>(3) 学校教育自己診断における全般に関する質問で肯定感80%(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断「教職員の学校組織に関する項目」の肯定感73%(△) <p>※ コロナ禍の要因があるのか検証していく。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 グローバル時代に対応する教育実践の導入と展開 | <p>(1) 4技能を英語授業に毎時間組み込んだ授業展開とさらなる英語教育の充実</p> <p>(2) ロジカル・クリティカルシンキングの理解と実践</p> | <p>(1) ア 広がる英語教育推進プロジェクトと教科内相互授業見学による研さんより4技能教授スキルと授業プロセス改善に取り組む。</p> <p>イ 国際グループを中心に、統合的な英語評価(CEFR)を行い、その現状分析と課題の把握を継続し、今後の方向性と課題解決策の策定作業を英語科とともに取り組む。</p> <p>ウ 国内外英語教育機会への参加とその紹介に努め、参加に努める</p> <p>エ 海外大学による模擬授業や外部機関による研修への参加の促進</p> <p>(2)</p> <p>ア 総合的な探究の時間の2年生全クラスでの円滑な実施。</p> <p>イ 海外研修や修学旅行目的・実施について学校経営計画との整合性を高める。</p> | <p>(1) ア、イ、1、2年外部評価試験全員受験。</p> <p>4技能統合データ</p> <table border="1"> <tr> <td>B1以上</td> <td>1年</td> <td>10名</td> <td>2年</td> <td>42名</td> </tr> <tr> <td>A2</td> <td>1年</td> <td>310名</td> <td>2年</td> <td>271名</td> </tr> <tr> <td>A1</td> <td>1年</td> <td>15名</td> <td>2年</td> <td>10名</td> </tr> </table> <p>Speaking データ</p> <table border="1"> <tr> <td>Grade6~7</td> <td>1年</td> <td>11名</td> <td>2年</td> <td>39名</td> </tr> <tr> <td>Grade4~5</td> <td>1年</td> <td>284名</td> <td>2年</td> <td>260名</td> </tr> </table> <p>ウ 海外研修80名以上参加の継続。海外研修の更なる内容検討と整備。事後アンケート満足度95%以上の継続。</p> <p>エ 校内での海外大学模擬授業研修・説明会を5回以上実施し、うち1回以上は府立学校に公開実施とする。</p> <p>(2) ア、イ</p> <p>2年総合的な探究の公開発表会を年2回以上実施する。また、海外研修については事前研修を充実させ、実施後の成果発表を文化祭で行い、学校全体や社会に開かれた活動とする。</p> | B1以上 | 1年 | 10名 | 2年 | 42名 | A2 | 1年 | 310名 | 2年 | 271名 | A1 | 1年 | 15名 | 2年 | 10名 | Grade6~7 | 1年 | 11名 | 2年 | 39名 | Grade4~5 | 1年 | 284名 | 2年 | 260名 | <p>(1) ア、イ、1、2年外部評価試験全員受験。4技能統合データ</p> <table border="1"> <tr> <td>B1以上</td> <td>1年</td> <td>6名</td> <td>2年</td> <td>47名</td> </tr> <tr> <td>A2</td> <td>1年</td> <td>332名</td> <td>2年</td> <td>301名</td> </tr> <tr> <td>A1</td> <td>1年</td> <td>20名</td> <td>2年</td> <td>8名</td> </tr> </table> <p>Speaking データ</p> <table border="1"> <tr> <td>Grade6~7</td> <td>1年</td> <td>9名</td> <td>2年</td> <td>40名</td> </tr> <tr> <td>Grade4~5</td> <td>1年</td> <td>349名</td> <td>2年</td> <td>316名</td> </tr> </table> <p>ウ 新型コロナウイルス感染症拡大のため実施できず。代替案として国内留学プログラムを3月に実施(一)</p> <p>エ 校内での海外大学模擬授業0回を含む説明会3回実施(うち1回は府内府立学校への公開実施)。(○)</p> <p>※コロナ禍で、外部の来校の可否、ICT環境等の要因で実施が困難であった。府内府立学校への公開実施をZOOMによる説明会・交流会であったが実現させたことで、箕面高校としての役割を果たせた。</p> <p>(2) ア、イ、2年総合的な探究の公開発表会年5回実施(◎)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外研修関連の取組みについては「評価なし」 | B1以上 | 1年 | 6名 | 2年 | 47名 | A2 | 1年 | 332名 | 2年 | 301名 | A1 | 1年 | 20名 | 2年 | 8名 | Grade6~7 | 1年 | 9名 | 2年 | 40名 | Grade4~5 | 1年 | 349名 | 2年 | 316名 |
| B1以上 | 1年 | 10名 | 2年 | 42名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A2 | 1年 | 310名 | 2年 | 271名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A1 | 1年 | 15名 | 2年 | 10名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Grade6~7 | 1年 | 11名 | 2年 | 39名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Grade4~5 | 1年 | 284名 | 2年 | 260名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B1以上 | 1年 | 6名 | 2年 | 47名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A2 | 1年 | 332名 | 2年 | 301名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A1 | 1年 | 20名 | 2年 | 8名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Grade6~7 | 1年 | 9名 | 2年 | 40名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Grade4~5 | 1年 | 349名 | 2年 | 316名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

府立箕面高等学校

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| <p>3 安全・安心な学びの場の中での学習・行事・部活動の一層の活性化</p> | <p>(1) 安全で安心な学びの場を形成</p> <p>(2) 進路実現のために保護者・教員が一体となった支援体制の確立</p> <p>(3) 生徒主体の部活動・行事の運営と学習との両立</p> <p>(4) 地域への情報発信と地域との連携・協働</p> | <p>(1) ア 教員とSCの協力のもと、全教職員で教育相談を充実させ、生徒が相談しやすい環境づくりを促進する。 イ いじめを根絶すべき重要課題を認識し、未然防止、早期発見、早期発見に組織的に取り組む。 ウ 災害や事故に備えてマニュアル整備や情報提供システムを整備し、実行性のある危機管理体制を確立する。</p> <p>(2) 学年・教科での認識の差をできるだけ少なくするために、進路指導部を中心に定期的な研修や振り返りを実施する。</p> <p>(3) ア 生徒会を中心とし、生徒主体の部活動・行事運営に関して、より発展的でシステム化されたものを検討する。 イ、ウ 「大阪府部活動の在り方に関する方針」に沿い、学習と部活のバランス及び教員の働き方と生徒の活動のバランスをとりながら成果をあげる。</p> <p>(4) ア 生徒会部・保健グループの支援のもと、生徒が中心となって地域との連携活動（清掃活動、ボランティア活動等）を実施し、地域への発信も行う。 イ ホームページによる組織的な情報発信及び地域や教育産業等を通じた学校説明会を実施するなど、情報発信を丁寧かつ継続的に行う。 ウ 保護者が学校の授業や行事に参加し、生徒・保護者・学校が一体となった学びの場を形成する。</p> | <p>(1) ア 学校独自のSC相談を5回以上確保し、自己診断「教育相談」(生徒)の肯定率R1:64.5→67%以上。 イ 自己診断「いじめ対応」(生徒)の肯定率 R1:82.6%→85%以上。 ウ 自己診断「災害時の情報提供」(生徒)の肯定率 R1:57.4%→60%以上。</p> <p>(2) ア 模擬テスト、英語外部テスト結果等の研修会の実施とその成果を進路指導に反映する。研修会の5回以上実施を継続し、 ・国公立大学合格者 R1: 58名→ 65名。 ・海外大学への進学合格率 R1 50%→ 60%以上。 ・海外大学進学希望者に対する説明会の年間5回以上の継続、うち1回は府立学校への公開実施。(R1:6回実施、うち1回公開実施)</p> <p>(3) 以下の内容の完成と遂行をめざす。 ア 教員と生徒会の協力による生活規律の改善。遅刻者数 R1:5374名→4500名以下。 イ、ウ 生徒会・行事における生徒の自主性を育み、教員のファシリテーション力を強化する。そのため、若手教員研修にファシリテーションやコーチング活動を組み込む。自己診断「生徒会を中心とした自主的な活動が活発である」R1:80.6%→83%以上。</p> <p>(4) 以下の内容の完成と遂行をめざす。 ア 生徒会や各クラブが清掃活動等を含め、ボランティア活動等の年間50回以上(H30 50回程度)を継続実施し、その成果をHP等で発信する。 イ HP更新回数100回以上の継続。自己診断「教育情報の提供」(保護者)肯定率 R1:83.1%→86%以上。地域や教育産業を通じた学校説明会の15回以上実施を継続する。 ウ 土曜日等に活用し、授業参観日を設けるとともに保護者対象の学校方針や進路等の説明会を年3回以上実施する。</p> | <p>(1) ア. 学校独自のSC相談を16回実施(◎) ・自己診断「教育相談」(生徒)の肯定感64%(△) イ. 自己診断「いじめ対応」(生徒)の肯定感85%。「いじめ対策委員会」のみならず教育相談委員会とも連携した組織的対応により、未然防止・早期発見、事象生起後の個に応じ寄り添った支援・指導ができたので数値以上に達成。(◎) ウ. 自己診断「災害時の情報提供」(生徒)の肯定感64%(◎)</p> <p>(2) ア. 校外模試検討会を2回実施(○)※コロナ禍で、外部の来校の可否、ICT環境等の要因で実施が困難であった。 ・国公立大学合格者55名(△) 海外大学への進学合格率75%。(◎) ・海外大学進学希望者に対する説明会の年間3回実施。(うち1回は府内府立学校への公開実施)(○) ※コロナ禍で、外部の来校の可否、ICT環境等の要因で実施が困難であった。府内府立学校への公開実施をZOOMによる説明会・交流会であったが実現させたことで、箕面高校としての役割を果たせた。 (3) ア. 遅刻者数6372名(△) イ、ウ. 自己診断「生徒会を中心とした自主的な活動が活発である」81%(○)※コロナ禍で制限の多い学校行事になったことによるが、行事後の文化祭/体育祭の生徒の満足度は91/87%、生徒の主体性発揮度97/85%、行事の安全・安心度は97/87%と、高い自己評価であった。 (4) ア. 新型コロナウイルス感染症拡大のため「評価なし」 イ. 自己診断「教育情報の提供」(保護者)の「肯定的評価」肯定率86%。(○) ・HP更新回数は年間100回以上、及び地域や教育産業を通じた学校説明会は5回実施。(○)※コロナ禍で中止が相次いだ。 ウ. 保護者対象進路講演会・説明会を1回実施(○)※コロナ禍で、外部の来校の可否の要因があり、開催が困難であったが、1回は、箕面高校初のPTA主催の進路講演会。</p> |
|---|---|---|---|---|